

# 小松教育事務所管内 タウンミーティング

11月4日(日) 小松市第一地区コミュニティセンター

**子供たちの生きる力を育むつどい in 南加賀**  
-地域のヒト、モノ、コトを活用して-



最近の教育を取り巻く環境は、家庭や地域社会の教育力の低下、子供たちの規範意識や公共心の欠如、児童生徒の学力低下など、様々な教育問題に直面しています。

こうした問題を解決していくためには、学校や教職員が一層の努力をすることはもちろん、県民一人一人が改めて教育問題について真剣に考え、学校、家庭、地域社会が一体となって、子供たちの豊かな心の育成と確かな学力の向上に努めていくことが重要です。石川県では、教育について県民全体で考える気運を盛り上げる契機として、11月1日を「いしかわ教育の日」また、教育の日にふさわしい取組を集中的に展開する期間として、11月1日から7日までを「いしかわ教育ウィーク」と定める条例を平成17年3月に制定しました。(いしかわ教育の日～学校・家庭・地域社会のさらなる連携に向けて～)

さて、小中学校は今年度より新学習指導要領の移行期間に入っており、平成32年度より、小学校から順次新学習指導要領が実施されていきます。今回の学習指導要領の改訂にあたり、その要点の一つに「カリキュラム・マネジメントの充実」があり、カリキュラム・マネジメントは3つの側面から整理されています。

今回の小松教育事務所管内のタウンミーティングでは、その3つの側面のうち、「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を(地域等の外部の物的資源も含めて)確保するとともにその改善を図っていくということ」に焦点を当てました。studio-L 代表、山崎亮氏による講演、ワークショップなどを通して、「学校が地域と連携していくこと」「地域の方々とつながることが、児童生徒の人生をより豊かなものにすること」などについて、ご参加のみなさまとともに考えました。

..... 当日のプログラム .....

◇ 開会挨拶 石川県教育委員会小松教育事務所 所長 向出 章

◇ 基調報告 「児童生徒を取り巻く教育情勢について」  
～「カリキュラム・マネジメント」をキーワードとして～

石川県教育委員会小松教育事務所 指導課長 横関 達人

今の子供たちが社会で活躍する頃には、社会構造や雇用環境などが大きく変化し、予測が困難な時代になると言われています。そのような時代を生きる子供たちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で、目的を再構築することができるようにすることが求められています。それは「生きて働く知識を習得し、学びを人生や社会に生かそうとしながら、未知の状況にも対応する力をつけていくこと」とも言い表すことができます。

こうした資質・能力の育成を図る上で、学校と社会の連携は今後ますます重要になります。「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る」という目標を学校と社会が共有し、連携・連動しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」を推進していかなければなりません。その実現に向けて、各学校の教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の視点での改善が求められています。



## 【講師プロフィール】

2005年 studio-L 設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、建築やランドスケープのデザイン、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。

【studio-L ホームページより】



## ～講演の内容より～

- ・地域を活性化するためには「自分たちの地域は自分たちで創る」という意識や意欲を持った人材、対話によって自分たちで学び、自分たちで作り出す人材が必要となる。今後の学校教育においてもそうした人材の育成が求められる。
- ・“連携”の重要性は様々な場面で叫ばれているが、「連携しましょう」「連携なさい」と言われてできるものではない。その前によりよい人間関係づくり、関係の質の向上が必要である。関係の質が向上すれば、思考の質が向上し、さらに行動の質が向上する。その段階があって初めてよい結果が得られる。結果だけを求めると連携は形式的なものになってしまう。
- ・人が集まれば何かがおきる、何か生まれる。何かを提供する、されるという一方通行の関係性だけではいけない。自分たちで創り、共有し、満足できるようなしくみを創ることが大切である。私たちはそのお手伝い、コーディネートをしている。  
例)「自分たちで創る公園」…パークレンジャー（公園を創る人）と共に公園を育てていく  
「まんがパーク」…まんがを中心にテーマをつなぎ、人を集め、新たなものを生み出す
- ・そもそも学校と社会は一体となって子供たちを育ててきた。その背景を知っていれば、連携に向けての言葉の選び方が変わってくる。社会制度の変遷を理解し、共有することも重要である。
- ・失敗も含めてまずはやってみる。撃って外してもう一度狙いを定めるくらいの気持ちが大切だ。

## ◇ 質疑応答・閉会

会場の皆様から出された質問にも丁寧にお答えいただきました。石川県の自治体に**関わった事例**もご紹介いただきました。地域の活性化にむけてヒト、モノ、コトをどのようにしてつないでいくか、さらに身近に感じることができました。



## ～参加の皆さまからの感想より～

- ・とてもとてもおもしろかったです。自分ごとにして、まちを、まちの人を知って、知ったからには行動して、わくわくする、生き生きするコミュニティを作る一員になれたらいいと思います。子供たちも、まちの物知りな方もみんな宝物ですね。
- ・自分たちの地域や生活は、自分たちで作っていくという視点を学校に当てはめると、学校には様々な可能性があると感じました。能美市では現在コミュニティースクールを推進していますが、連携することから始めるのではなく、関係づくりを大切にしていかなければならないと思いました。
- ・これまでの「着ていた服が窮屈になっても、リフォームを繰り返して何とか着ていた時代は終わった。服を着替えなくてはいけない。」という言葉がとても心に残りました。発想の転換、地域にねむっている資源を積極的に活用するという発想が、学校にも必要だと思いました。
- ・学校、PTA、地域との距離を縮めて、もっと同じ視点で話し合っってアイデアを出したり、話し合ったりできたらいいなと思いました。